

静岡県漁業協同組合連合会

986 静岡市追手町 9-18

14.3.22 ☎ 054-254-6011

編集・発行 = 指導部漁政課

1. 第45回県漁協婦人部大会開催

- 県漁婦連 -

県漁婦連(種石幸枝会長)では、去る3月15日県女性総合センター(あざれあ)において、県下漁協婦人部員等約270名の参加のもと、第45回県漁協婦人部大会を開催しました。

当日は種石会長の主催者挨拶に続いて、来賓として県農林水産部若倉経営普及室長、本会橋ヶ谷会長、県信漁連佐藤会長より夫々祝辞が述べられ、続いて御前崎漁協婦人部 吉村トキエ氏が「郷土料理“ がわ ”を通じた地域交流」と題した第7回青年・女性交流大会での実績活動の発表が行われた後、「この婦人部大会を契機として、私達婦人部員はさらに明るく豊かで国民誰からも好感の持てる地域づくりに向けて、一致協力し活動を展開すること」を誓う旨の大会宣言が述べられ、満場一致で採択されました。

午後からは、「暴力もけん銃もない平和な世界を目指して」(講師：堀江ひとみ氏)と題した講演のほか、恒例のアトラクションが披露されました。

2. 「第1回富士山にじますの森植樹祭」開催

富士養鱒漁協(武田勝美組合長)では、漁民の森づくり活動推進事業の一環として、このほど「第1回富士山にじますの森植樹祭」を開催しました。

当日は、水産関係者をはじめ、森林組合、一般市民など約250人が参加して、富士宮市鞍骨沢の同市有林伐採跡地(1.3ha)に、ブナ、ケヤキ、ヤマザクラなどの広葉樹(13種、3,500本)を植えるとともに、参加者にはニジマスを利用した昼食が振る舞われました。

同漁協では、「今回の植樹祭を通じて、消費者にニジマスのPRを図るとともに、漁業者の環境保全への取り組みや水資源の涵養の重要性について、広く理解を深めてもらう運動を展開したい」としています。

3. 平成13年度卒業式を挙行 第32期生16名が海の男に

- 県立漁業高等学園 -

静岡県立漁業高等学園(野矢和夫園長)では、去る3月14日平成13年度(第32期生)卒業式を挙行し、本県漁業の将来を担う海の若人16名(航海科7名、機関科9名)を漁業の第一線に送り出しました。

式典では、卒業生全員に卒業証書と記念品が授与され、野矢園長の式辞に続いて、松本県経営支援総室長より挨拶があり、来賓として八木県議会議員、西川同学園後援会副会長(県鯉鮪漁協長)が夫々祝辞を述べるとともに、卒業生を代表して機関科・鳶本勝太君が「先輩方の後を継ぎ、強くたくましい海の男になります」と答辞を述べ閉会となりました。

なお、卒業生は既に次のとおり各々県内漁船への乗船が決定しています。

近海かつお漁業：5名 遠洋かつお漁業：6名 まき網漁業：3名 さば漁業：2名

4. シラス、イワシ漁海況予察研修会開催

県水産試験場、県しらす船曳網漁業組合共催による平成13年シラス、イワシ漁海況予察研修会が去る3月11、12日に福田町、浜名、吉田町、静岡の4漁協において開催され、席上、県水産試験場より次のとおり漁海況予測が発表されました。

海況：3月上旬現在、黒潮は遠州灘沖の33°30'N付近を東進し、伊豆諸島海域の三宅島付近を流れるN型流路で経過しており、伊豆諸島北部では接岸傾向、九州東岸から四国沖では離岸傾向を示している。今後、遠州灘沖への小蛇行の東進により、黒潮はN型からB型となり、その後、C型 D型 N型へと短期的に変動すると予測される。また、沿岸水温は概ね平年並みで経過するが、黒潮の小蛇行の通過に伴い一時的に暖水波及や黒潮内側反流が形成される。

漁況：前年はマシラスの水揚量が5年ぶりに100トンを超えるなど近年としては好調であったが、親のマイワシ資源の状況が大きく好転しているわけではないので、前年を上回る漁は期待できず、今年もカタクチシラスが水揚げの殆どを占める。春季に産卵の主体となる親の大型カタクチワシの資源水準は、極めて低かった前年は上回るものの依然として低水準のうえ、2月までの産卵量も少ないことなどから、漁の本格化は例年並み～やや遅い4月下旬～5月上旬と予測される。また、夏以降産卵の主体となる親の小型カタクチワシの資源水準は前年より低いと推察される。

以上のことから、県下主要6港における水揚量は、春漁(3～6月)では、前年(2,569トン)並みで、平年(過去5ヶ年平均、約2,850トン)を下回ると予測される。また、夏・秋漁(7～10月)では、前年(3,435トン)並みで、平年(約4,280トン)を下回る、年間の総水揚量では前年(6,182トン)並みで、平年(約7,400トン)を下回ると予測される。今年も前年に引き続きやや低調な漁模様になると思われる。

5. 駿河湾深層水のブランドマークを制定

県では、このほど新焼津漁港で試験給水している駿河湾深層水のブランドマークを制定しました。

今年秋以降には、深層水を利用した様々な商品やサービスの提供が予想されるため、駿河湾深層水の信頼性を確立し、類似品との差別化を図るもので、マークは富士山・球体・らせんを組み合わせ、2種類の青色で配し、日本一深い湾から汲み上げ、多大な可能性を秘めた深層水の魅力を表現しており、正方形の基本タイプのほか、横長タイプとロゴを拡大したタイプの3種類を作成しました。

また、デザイン使用の統一性を図り、かつ深層水のイメージを正確に伝えるため、使用に際しての色・サイズ等を定めた使用条件マニュアルも整備したほか、マークの使用については、今後深層水を利用する企業体等で構成する利用協議会(仮称)を設置し、商品やサービス水準を確保するシステムを検討することとしています。